

## あさかわせんじょうちいせきぐん 浅川扇状地遺跡群



# 遺跡のせつめい!

## 〈平成 23 年度の調査から〉

あさかわせんじょうちいせきぐん あさかわ せんじょうち  
浅川扇状地遺跡群は、浅川によってつくられた扇状地  
の上にあり、ぜんこうじだいら  
善光寺平の北部に位置します。

遺跡群は、これまで長野市教育委員会による発掘調査が行われています。

- ・吉田高校グラウンド遺跡…弥生時代後期<sup>やよいじだいこうき</sup>の「吉田式土器」の名前のもとになった遺跡
- ・檀田遺跡…縄文時代中期、弥生時代中期～古墳時代後期の集落遺跡
- ・桐原宮西遺跡…奈良～平安時代の集落遺跡
- ・桐原宮北遺跡…弥生時代後期～古墳時代前期<sup>はかあと</sup>の墓跡、古墳時代～平安時代の集落遺跡

平成 23 年度から、長野県埋蔵文化財センターが県道高田若槻線の建設に先立ち、桐原地区や吉田地区で発掘を行っています。平成 23 年度には、古墳時代～平安時代の集落跡、中世の墓跡や井戸跡・堀跡などが発見されています。

## 1 こぶんじだい しゅうらくあと 古墳時代の集落跡

桐原地区では古墳時代前期(約 1,600 年前)  
の竪穴住居跡が 9 軒見つかっています。

住居跡は、調査地の外側にも続いており、  
大きな規模をもった集落であったことが予想  
されます。住居跡は、いずれも一辺の長さが  
7m ほどの方形状で、建物の向きは西側にや  
や傾いています。

住居跡からは、たくさんの土器片が出土し  
ましたが、第 56 号竪穴住居跡(SB56)とした  
住居の壁ぎわには、床面に埋められた状態で  
完全な形の甕が発見されました。



古墳時代の竪穴住居跡

## 2 なら へいあんじだい 奈良・平安時代の集落跡

奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡 62 軒、井戸跡 1 基、土坑などが見つかっています。  
住居跡の多くは平安時代前期(約 1,100 年前)です。住居跡は何軒も重なり合った状態である  
ことから、長い間、同じようなところに住んでいたことがわかります。古墳時代と同様に、  
居住域は調査区外へと続いており、大規模な集落であったと思われます。住居跡の多くは、

一辺が5mほどの大きさで、古墳時代の住居跡に比べて小形です。建物の向きは南北方向にそろっています。またカマドが残っている住居跡では、そのほとんどが北壁の中央付近につくられています。

出土した土器の多くは、一般的な集落で使われていた甕や坏などですが、なかには筆立て付円面硯(筆を立てる部分のついたすずり)や帯金具(ベルトの金具)など一般的な集落では見られない、役人が使う道具なども発見されています。

このことから調査地周辺に役所の存在を考えることができそうです。



平安時代の竪穴住居跡

### 3 中世(鎌倉～室町時代)の居館跡

中世の遺構は、堀跡1条、井戸跡1基、墓跡4基、土坑などが見つかりました。

桐原地区の調査2区にある堀跡は、調査区の西寄り南北方向に直線的に伸び、北側で東西方向へ曲がるらしいことがわかりました。堀跡の規模は幅約3m、深さ約1.5mあります。西寄り南北方向の溝には幅約2mにわたり、堀の途切れる箇所が確認されており、出入口部にあたる土橋ではないかと考えられます。調査区の東側には中世武士の居館跡とされる高野氏館跡(桐原要害)の推定地があり、堀跡はその居館をとりかこむ堀だと思われます。

また調査1区とした桐原地区で3基、調査5区とした吉田地区で1基の墓跡が見つかっています。桐原地区の墓の人骨はいずれも頭を北にして手や足を折り曲げた格好で埋葬されていました。吉田地区の墓の人骨は、残りの状態が悪く、全体の形がはっきりしませんが、木製の棺に入れて埋められていた痕跡が残っていました。



中世の居館の堀跡

#### 浅川扇状地遺跡群 遺跡現地説明会資料

発行日:平成24年(2012年)5月20日(日)

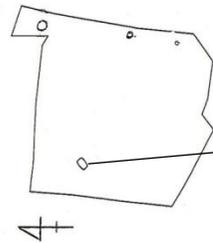
発行者:(財)長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

連絡先:浅川扇状地遺跡群発掘調査現場

090-2728-5083 (現場携帯)

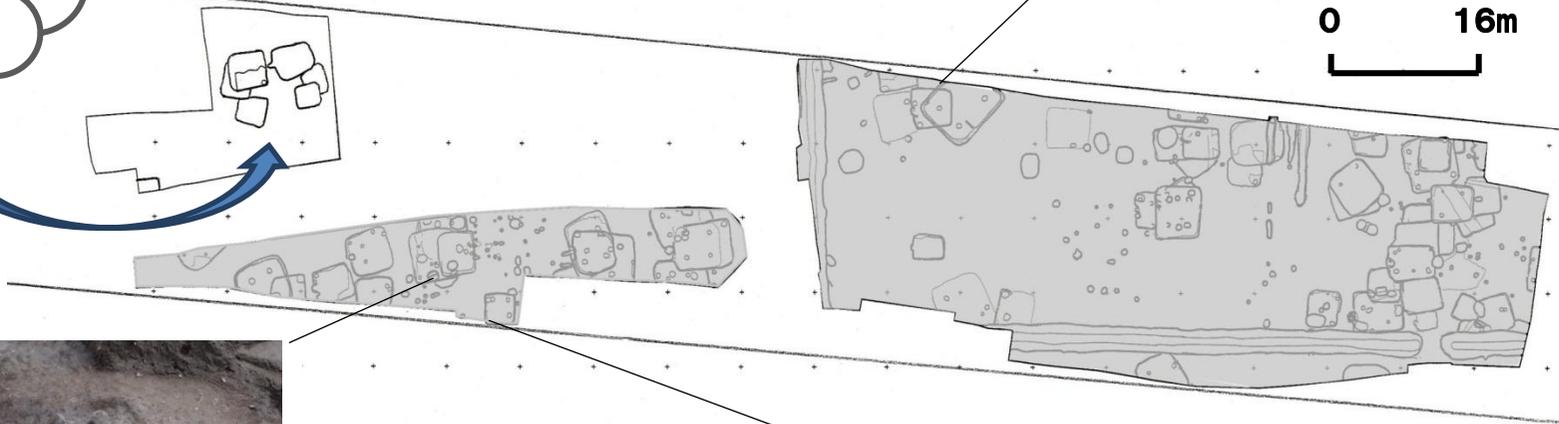
あさかわせんじょうちいせきぐん  
浅川扇状地遺跡群



お墓から見つかった人の骨を調べています。木でできたお棺に入っていました。



古墳時代の住居跡の床に埋められていた、完全な形の土器。



0 16m

■ H23 年度調査



お墓の中に手足を折り曲げて埋められていた人骨。



カマドの中からはたくさんの土器がみつかりました。